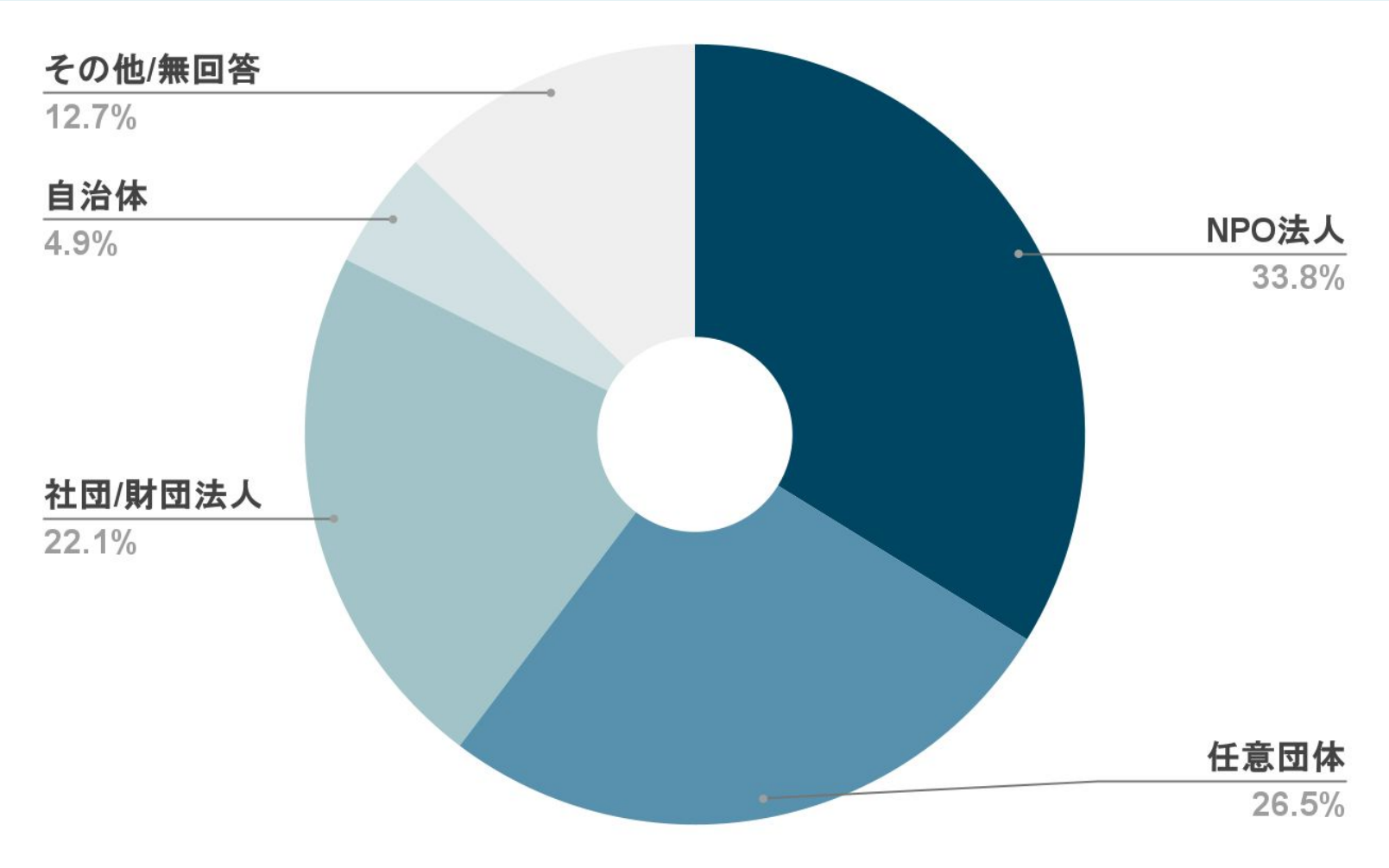
宮城県の助成プログラム×NPO
～資金と想いの好循環～「助成申請」編

｜参加者アンケート結果｜

日　時：2024年9月6日（金）14：00～17：00
会　場：みやぎNPOプラザ／オンライン（Zoom）
　　気仙沼市役所ワン・テン庁舎
　　名取市市民活動支援センター
　　とめ市民活動プラザ

[登壇団体] 真如苑、仙台銀行（初参加）、東北労働金庫、
　　宮城県共同募金会、みやぎ生活協同組合生活文化部

参加申込者の属性（n＝96）

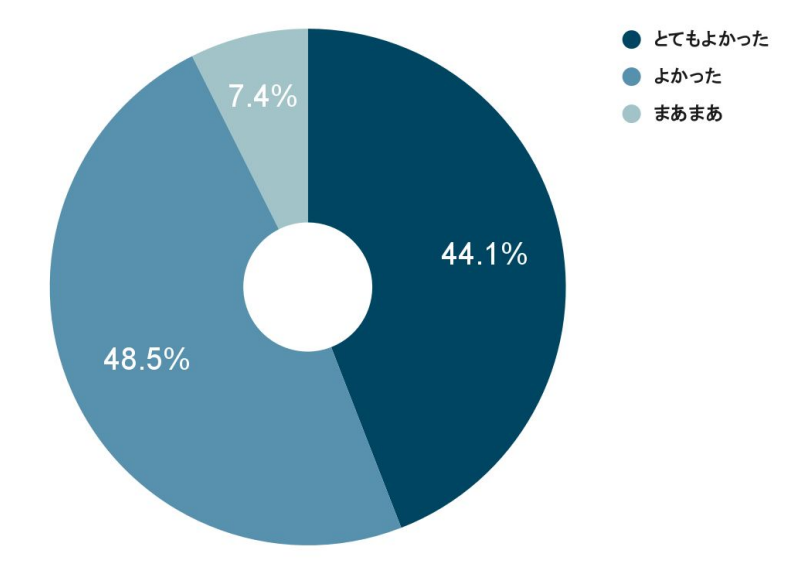


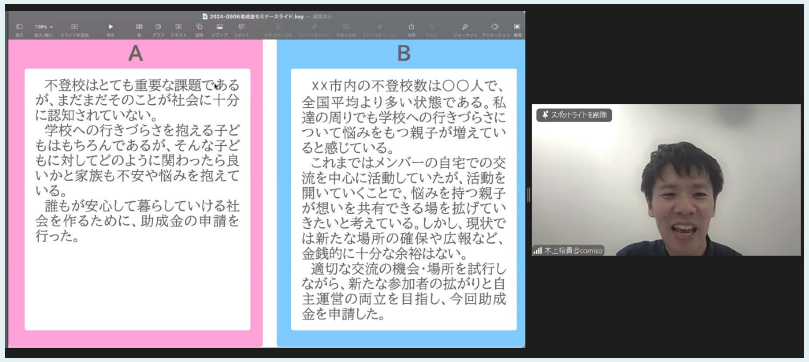
※「その他/無回答」には、アンケート未回答者や当日欠席者を含む

参加者アンケート（n＝68）

01

基調講演（一般財団法人明石コミュニティ創造協会・木上さん）はいかがでしたか？





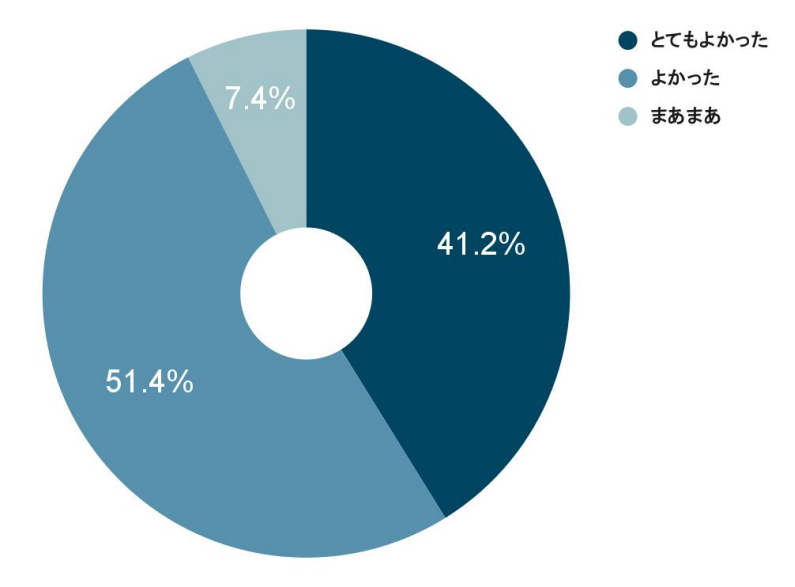
02

その理由を教えてください。

- 今まで、いかに助成してくださる団体に自分たちの思いを届けるか…という視点で申請書を作成していましたが、助成団体がどんな思いかという視点で考えることも大切だと気づくことができた。
- 助成金は団体の活動を「もう一歩」進めていくブースターという説明が的確だった。
- 助成する側の気持ち、助成を受けて活動する側の熱意の伝え方など考えてみたいと思いました。

参加者アンケート（n＝68）

03
登壇団体の発表はいかがでしたか？



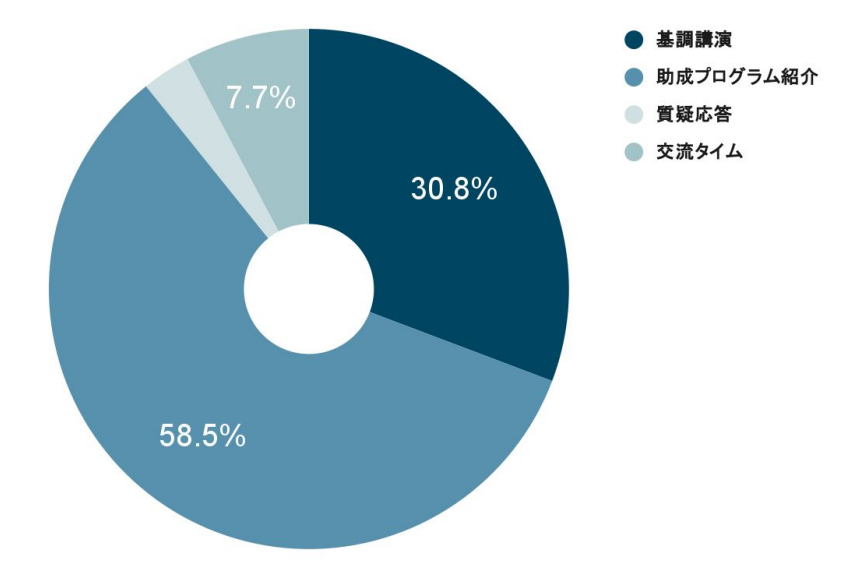
04
その理由を教えてください。

- どの団体の助成金募集も事前に読んでいましたが、読んでいただけではわからなかったこと、また私自身が読み違いをしていて申請すること自体を諦めていたことも気づくことができた。
- 各団体の視点を知ることができ、なぜ申請が通らなかったのかの理由が見えた気がした。
- 熱い思いが伝わりました。応援者がいるとおっしゃっていて、大切なお金なんだと再認識しました。
- 助成の意図や、申請団体に期待するものが明確になった。

参加者アンケート（n＝68）

05

最も今後に活かせそうだと思った部分を
教えてください。



〔基調講演〕

- 助成金の種類は異なっていても応募する際の根本は一緒だと思うので、その面を改めて教えていただくことができた。

- 財源を補うために助成金を申請するのではなく、組織の活動目的が一致した上で、その実現のために活用するものであるということを考える好機となった。

〔助成プログラム紹介〕

- 申請団体そのものを応援する団体もあれば、団体そのものではなく助成事業によって効果がもたらされる方々を応援する団体もある。

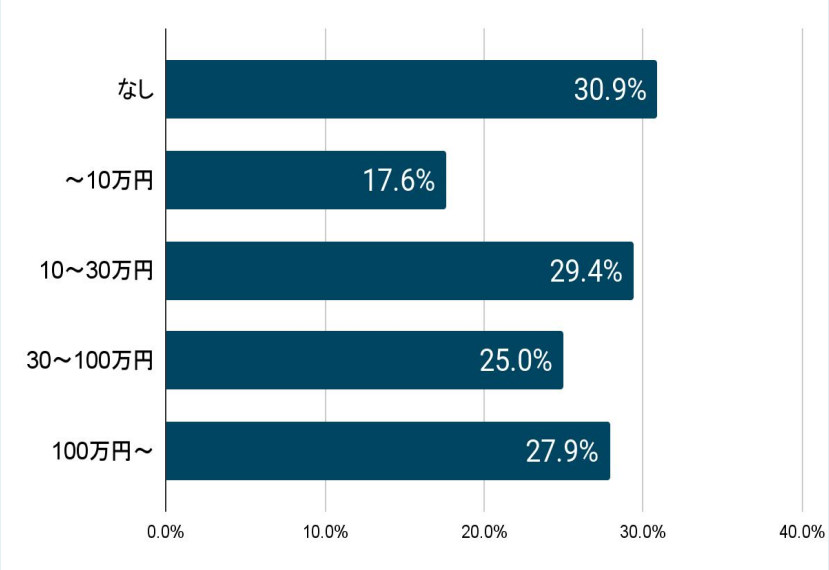
〔質疑応答〕

- 申請側と助成側の捉え方のギャップが少し埋められたように感じられた。

助成金について（n＝68）

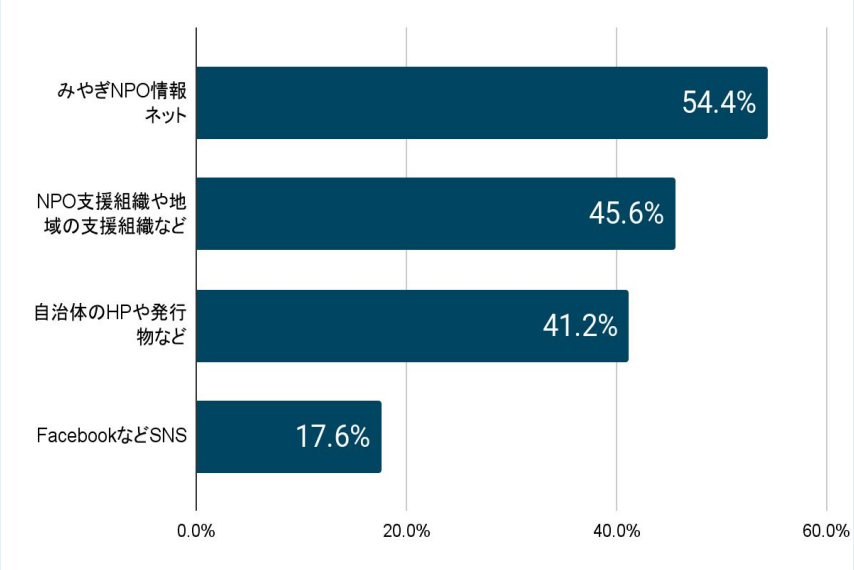
06

助成申請経験について教えてください。（複数選択可）



07

現在、助成金情報はどのように得ていますか。（複数選択可）



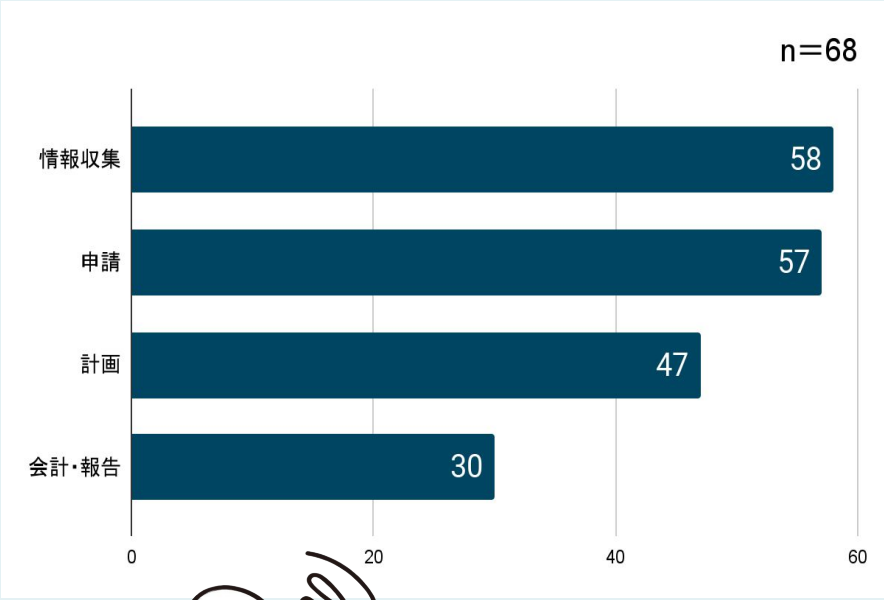
〇参加者の声

２回目の参加をさせていただきました。来年度もぜひよろしくお願いいたします。／様々な情報を発信していただきありがたいです。／申請書の書き方が団体によってバラバラであるため、今回のように書き方のコツを教えていただく研修は大変有意義であると感じた。／助成団体と活動団体が繋がる機会はとても貴重だと感じました。今後もぜひ開催していただきたいです。／申請するにあたりやはり、今日のようなことを伺っておけばもっと上手に記述できたかもしれないと感じました。

助成金について（n＝68）

08

助成金について課題と感じていることを
教えてください。（複数選択可）



〇情報収集
自団体の活動分野に合うか（41.2%）
自団体の事業規模に合うか（44.2%）

〇申請
募集要項の読み解き（36.8%）
申請書の書き方（47.1%）

〇計画
助成事業の計画の立て方（42.6%）
助成事業の予算の立て方（26.5%）

〇会計・報告
領収書のまとめ方（11.8%）
法人会計との分け方（13.2%）
助成元への成果報告（19.1%）

〇その他
- 何が課題なのか理解できていない。
- 申請書を書ける人材が少ない。
- 人件費がでない、他のNPOとの競争。

さいごに

実施成果

前回アンケートから、募集要項の読み解きと申請書の書き方に課題感を感じる団体が約4割近くいたことや、助成団体側の課題感を受け、今回は助成申請をテーマとした。資金調達の一つとして助成金とは何か？を発信した前回から、今回は審査員に伝わる書き方の視点や、助成側とのねらいのすり合わせの大切さなど、助成金をより効果的に活用する視点での発展的な情報発信ができた。

また、第1回目の開催後から今回にかけて、登壇団体の助成プログラムに応募した参加団体がいたことや、「申請を諦めていたが活動の対象になることが分かった」との声もあり、その後のアクションにも繋がる実践的な内容を提供できた。

今後の展望

草の根で活動するNPOに対して助成金の周知だけでなく、資金調達のスキル向上や意識醸成など長期的なニーズがあることから、次年度も引き続きイベントの継続開催を目指していく。なお、それ以外の場での支援、情報発信の方法についても、引き続き関係団体とコミュニケーションを取りながら模索していく。